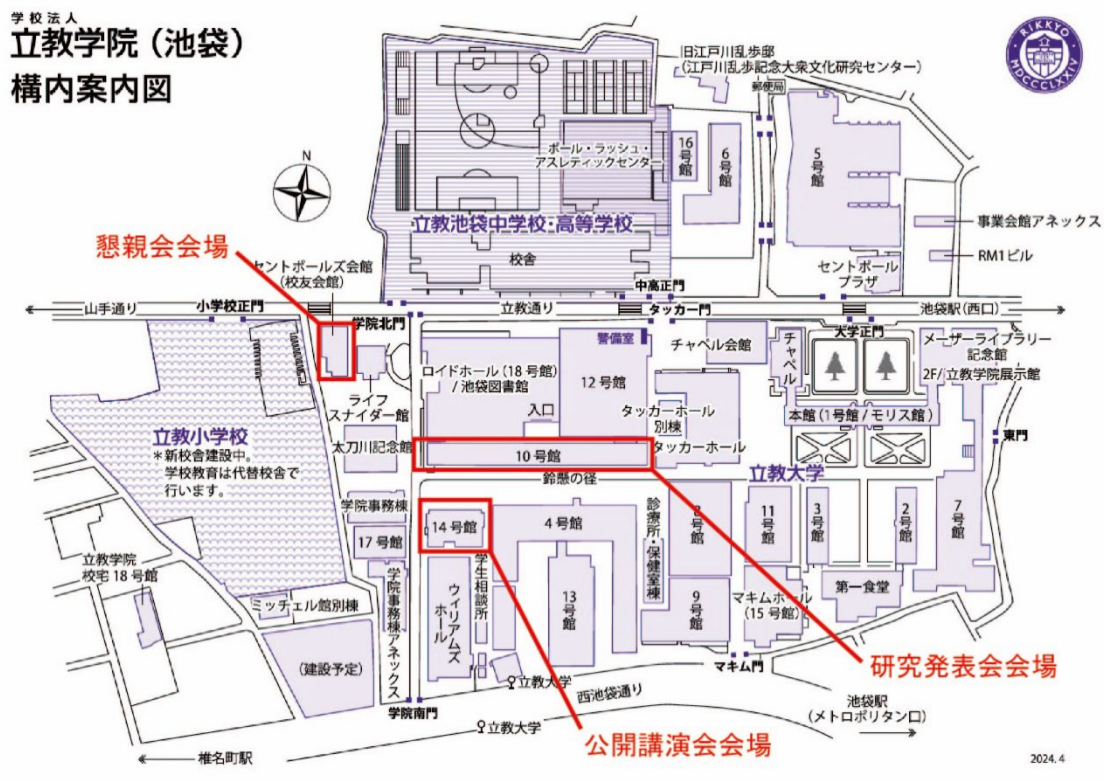


日本オリエント学会第66回年次大会プログラム

2024年10月12日(土)・13日(日)

会場 立教大学池袋キャンパス (〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1)



第1日 10月12日(土)

公開講演会・学会奨励賞授賞式

会場：14号館3階・D301 (Zoom ウェビナーを利用したハイブリッド方式)

13:00 開場

13:30~13:40 開会挨拶 (小林春夫会長)

13:40~17:10 第335回公開講演会

第1部 13:40~15:00 オリエント学会設立70周年記念特別企画「オリエント学会の来し方行く末」

中田一郎 (中央大学名誉教授)

鎌田繁 (東京大学名誉教授)

小林登志子 (本学会会員)

司会 近藤二郎 (早稲田大学名誉教授)

休憩 (10分)

第2部 15:10~17:10 「一神教と図像／美術」

杉本智俊（慶應義塾大学名誉教授）「図像学から見るヤハウェー神教の文化的背景」（50分）

榊屋友子（東京大学東洋文化研究所教授）「イスラーム美術に描かれた一神教の預言者たち」（50分）

司会 加藤磨珠枝（立教大学）

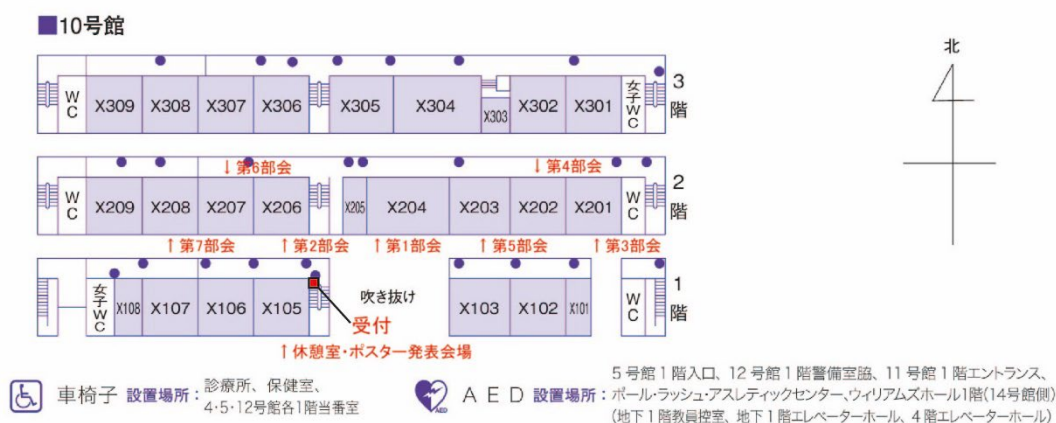
17:15～17:45 第46回オリエント学会奨励賞授賞式

18:00～20:00 懇親会（会場：セントポールズ会館2階）

第2日 10月13日（日）

* 研究発表会：各発表は20分、質疑応答は5分、それぞれ厳守をお願いいたします。

* 会場：10号館1階、2階



第1部会（X204教室）

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	河江肖剰	ピラミッド建造における傾斜路の解体と再建
2	10:30-10:55	柏木裕之、山田綾乃	クフ王第2の船・改変の可能性について
3	11:00-11:25	岩本尚教	古代エジプト第5王朝の太陽神殿とピラミッドの関係について—官僚称号の比較分析からの一考察
4	11:30-11:55	宮崎滯菜	木製模型からみたエジプト中王国時代前半期における地域性
昼食休憩（休憩室：1階 X105 教室）			
P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム（1階 X105 教室）	
5	13:30-13:55	加藤慎一	エジプト、アビュドス出土の中王国時代のステラとその所有者について—ステラの寸法と所有者の称号の分析を中心に

6	14:00-14:25	近藤二郎	エジプト新王国第 18 王朝ウセルハト墓 (TT47) について
7	14:30-14:55	肥後時尚	古代エジプト新王国時代における「二柱のマト」
8	15:00-15:25	花坂哲	護符にみる民衆の信仰ーアコリス遺跡南区出土のファイアンス製護符を中心として

第 2 部会 (X206 教室)

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	河合望	エジプト、サッカラ遺跡北部における墓地の形成と展開について
2	10:30-10:55	竹野内恵太	初期王朝～古王国時代の北サッカラ遺跡における岩窟墓の埋葬習慣と被葬者像
3	11:00-11:25	南澤武蔵	古代エジプトにおける双生児の姿の検討
4	11:30-11:55	進藤瑞生	エジプト第 2 中間期後葉から新王国時代における土壙墓の頭位方向
昼食休憩 (休憩室：1 階 X105 教室)			
P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム (1 階 X105 教室)	
5	13:30-13:55	清水麻里奈	プトレマイオス朝最盛期における動物崇拜の興隆とその背景
6	14:00-14:25	高橋亮介	北サッカラ遺跡グレコ・ローマン時代カタコンベ出土のギリシア語史料
7	14:30-14:55	山崎世理愛	エジプト中王国時代における地方の中央集権：古代エジプトの儀礼研究の可能性
8	15:00-15:25	有村元春	文字資料から見た後期青銅器時代のエジプトとアラシヤとの交易活動

第 3 部会 (X201 教室)

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	堀岡晴美	都市 a-HU.TI(ki)が戦場になる時ーファラ文書前期から後期への転換期
2	10:30-10:55	辻坂真也	ウル第三王朝における王の神聖性の変遷
3	11:00-11:25	眞々田小太郎	前期古バビロニア時代 Tutub 市 Sin 神殿の貸付事業
4	11:30-11:55	村井伸彰	海の国第一王朝の史料 (Schøyen Collection, Tell Kahiber) における関連性と相違点について
昼食休憩 (休憩室：1 階 X105 教室)			

P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム (1階 X105 教室)	
5	13:30-13:55	山本孟	ヒッタイトのフリ儀礼文書—ヒッタイト語で記される儀礼行為についての考察
6	14:00-14:25	山田雅道	エマルにおける暦と Emar VI 446
7	14:30-14:55	佐野克司	歴史史料としてのアッシリア王碑文
8	15:00-15:25	渡井葉子	新バビロニア時代におけるアッカド語人名のジェンダー的側面に関する予備的研究

第4部会 (X202 教室)

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	丸小野壮太・佐藤育子	歴史教育における開かれた古代地中海世界史研究—アッシリア史とフェニキア・カルタゴ史に関する博物館所蔵資料調査を手がかりに
2	10:30-10:55	飯島克彦	民俗学的アプローチによる聖人伝研究の可能性—『ガレシオンの聖ラザロス伝』を例に
3	11:00-11:25	江添誠	ガダラにおけるヘラクレスの信仰
4	11:30-11:55	大江翔悟	オスマン朝におけるカリグラフィーによる具象表現の展開—メトロポリタン美術館所蔵《文字で構成される孔雀の図像表現》を中心に

昼食休憩 (休憩室：1階 X105 教室)

P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム (1階 X105 教室)	
5	13:30-13:55	青木健	カイヴァーン・ガズヴィーニー研究—アザル・カイヴァーンの神秘主義の行方
6	14:00-14:25	矢口直英	用途とは何だったか?—続・イスラーム世界の解剖学再考
7	14:30-14:55	森口遥平	イラーハーバーディー『等価』における神と被造物
8	15:00-15:25	本間流星	英領インドにおける存在一性論の哲学的洗練—メフル・アリー・シャーの「存在」概念を中心に
9	15:30-15:55	Danisman Idris	説教壇からコミュニティーに届く声—日本のモスクにおいて説教はどのように作成されるのか

第5部会 (X203 教室)

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	亀谷学	初期イスラーム時代の「家」とウマイヤ家の形成

2	10:30-10:55	濱田聖子	9世紀における書物「出版」の一側面—ジャーヒズを例として
3	11:00-11:25	高橋稜央	アラビア語版教会法 Al-Qānūn al-Muqaddas からみた 11 世紀アンダルスにおけるキリスト教徒とムスリムの婚姻
4	11:30-11:55	大塚修	歴史書としての『天文学者たちの規範』—とあるニザール派天文学者による前イスラーム時代史認識
昼食休憩（休憩室：1 階 X105 教室）			
P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム（1 階 X105 教室）	
5	13:30-13:55	角田哲朗	フルーフィー教団におけるメシアニズム—アリー・アル＝アーラーとフィリシュテオールの著作から
6	14:00-14:25	笹原健	イブン・アラブシャーと君主たち—15 世紀マムルーク朝の君主論
7	14:30-14:55	堀井聡江	「神/人間の権利」にみるシャリーアと国家
8	15:00-15:25	岩本佳子	ジプシー çingene は「ジズヤ」を支払ったのか？—オスマン朝における移動民管理と人頭税
9	15:30-15:55	塩野崎信也	ロシア帝政期南東コーカサスにおける「妻の連れ去り」

第 6 部会（X207 教室）

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	門脇誠二、木元菜奈子、近藤康久、黒住耐二	南ヨルダンの紅海近郊における海産貝の流通—旧石器から新石器時代にかけての継続性と変化
2	10:30-10:55	小高敬寛、前田修	イラク・クルディスタン、シャフリゾール平原の後期新石器時代における物質文化の変遷
3	11:00-11:25	川上直彦	アッカド地域におけるシュメール初期王朝時代とアッカド王朝時代の型式学的特徴を持つ土器片に関する考察—キシユとその周辺地域における McG. Gibson の見解—
4	11:30-11:55	常木麻衣	アシュモレアン博物館所蔵の分銅に関する一考察
昼食休憩（休憩室：1 階 X105 教室）			
P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム（1 階 X105 教室）	

5	13:30-13:55	三木健裕、板橋悠、黒沼太一、田邊幹太郎、近藤康久	南東アラビア内陸部ワーディー・スーク期の絶対年代—オマーン、ムガーラトゥ・ル＝キャフ洞穴の発掘成果から
6	14:00-14:25	西山伸一、Jeanine Abdul Massih	フェニキアの港湾都市バトルーン、レバノン—鉄器時代・ペルシア時代における考古学資料の考察
7	14:30-14:55	長尾琢磨	ローマ時代ユダヤ・サマリア地方における墓の立地と土地利用
8	15:00-15:25	下山繁昭	古代インド文化の我が国への伝播した痕跡を求めて甕棺墓、子持ち壺を分析する

第7部会 (X208 教室)

	時間	発表者	タイトル
1	10:00-10:25	榮谷温子	クルアーンにおける'a-疑問文と hal 疑問文の比較
2	10:30-10:55	村上武則	アルメニアの「エズディキ語(ヤズィーディー語)」とクルド語
3	11:00-11:25	五十嵐小優粒	ペルシア語受身の意味役割—被害性の有無と完了に着目して
4	11:30-11:55	中村菜穂	修辞学的側面から見たイラン現代史における神話的形象—共同体の再定義をめぐって
昼食休憩 (休憩室：1階 X105 教室)			
P	12:50-13:20	ポスター発表コアタイム (1階 X105 教室)	
5	13:30-13:55	内記理	クシャーン朝のタリム盆地侵入とカローシュティー文字の伝播
6	14:00-14:25	赤司千恵、中山誠二	アク・ベシム遺跡の出土植物からみるシルクロード都市の盛衰
7	14:30-14:55	鈴木慎也	古代スリランカの水利遺構に残された矢穴痕の形状比較
8	15:00-15:25	藤原達也	ティリヤ=テペ、ビーマラーン、最古の仏像: 主として貨幣史料から見た西暦 20 年前後ガンダーラ・バクトリアの経済・文化動向

ポスター発表：コアタイム 12:50-13:20 (1階 X105 教室)

※発表者は、当日午前中にポスターの掲示作業を完了してください。

※各発表者は、コアタイムの冒頭で順番に1分間のショートトークをお願いします。

	発表者	発表題目
--	-----	------

1	阿部善也・山花京子	MIHO MUSEUM 所蔵「ファラオの横顔」再考—美術的特徴と材質的特徴による再解釈
2	柏木裕之・山田綾乃	クフ王第2の船・船体部材の構成
3	北川千織	古代エジプトにおける海水貝類の流通—ゲベル・アシュート・アルガルビ遺跡の事例
4	清水麻里奈・佐藤力矢	マネトンの『エジプト史』に見る初期プトレマイオス朝の正統性—第一・第二王朝の記述を中心に